



2023 年 9 月 NO.68



ウェスタンプレーンズ動物園



ダボ旧監獄所見学



アルパカ牧場



逍遙園「寿里庵」での茶会



地元アーティストと



ウェリントン洞窟



フェアウェルパーティにて ディカーソン市長（右）シビル議員（左）



姉妹都市オーストラリア・ダボへ学生派遣 再開！

7月26日(木)～8月8日(火)

コロナ禍で3年間途絶えていた派遣事業ですが、4年ぶりに美濃加茂から中高生10名と引率2名を派遣しました。

久しぶりの派遣でしたが、現地ではダボの人々にとても温かく迎え入れていただき、10日間のホームステイや学校体験、様々な施設見学や文化体験をして、生徒たちは一回り大きく成長した姿で帰国しました。



派遣生の感想 ～ ダボ派遣を終えてこれからの自分

◆異文化体験

日本では自分が時間に厳しく、集合時間もきちんと守るというルールで生活しているのに、がオーストラリアでは、それが当てはまらずギャップに悩んだ。しかし、それを文化の違いとして「郷に入れば郷に従え」という異文化を受入れるということを肌で感じた。ホストや学校、現地の人との交流で、「異文化交流」に対して、より強く興味をもつようになり、今後の進学、大学選択においても大きな体験となった。



◆世界平和

自分から話したくても、なかなか切り出すことができなかった話題「過去の日本とオーストラリアの戦争」について、帰国前日、勇気を降りしぼってホストファミリーと話し合い、分かり合うことができた。自分の思っていることを素直に伝えれば、相手は心を開いてくれることを学んだ。今回の目標だった「世界平和」を小さい成果ではあるが達成できたと思う。将来は、さまざまな国を訪れ、たくさんの他国の人と仲良くなりたい。

◆成長

1つは英語力の向上。英語漬けの生活の中で、読み書き聞く、すべての力が良くなったと実感している。
2 つ目は自分の考え方の変化。ダボでゆったりとした時間を過ごす中で、時間の大切さや勉強できることの幸せを感じた。自分のことは自分ですべてやるという習慣ができた。当たり前なのが本当に今のままで良いのかを考えるきっかけとなった。

◆自立

ダボでは、ほとんどの子が自ら動いて行動していた。昼食も自分で作って持っていく。食べ終わった食器も自分で洗って片づける。自分との違いを大きく感じた。これからの生活では、自立を意識して生活していきたい。

◆率先

ダボから帰ってからは、自分で率先して行動することが増えたと思う。食器洗いも自分からやり、あまり関わりのない人にも自分から話しかけるようになった。今回の派遣で学んだこと、知ったことを多くの人に広め、多くの人々がダボのことを知ってほしい。

◆将来の夢

オーストラリアの人のフレンドリーさに触れ、全く日本とは違う広大な土地の広がる環境の中で、心も体も開放され、のびのびと過ごせた。自分の将来の夢は、外国で日本語を教えること。その夢について具体的な目標が立った。今回の経験を活かしたい。



◆思いやり

オーストラリアの「人は目が合うと笑顔で返してくれる、それによって自分も笑顔になり幸せな気持ちになった。今回の滞在で、相手を思いやる心、優しさを身に染みて感じた。思いやりは世界共通だと考えた。そして、会話を重ねる中で、相手に伝えたいという気持ちが何よりも重要だと思った。今回の派遣を通して、心で感じたこと、思いやりを常に忘れず生活に活かしていきたい。



ダボからの派遣高校生 10 名・引率が 9 月 28 日(木)～10 月 6 日(金)美濃加茂を訪問します！

10 月 5 日(木)夜、ダボからの派遣生たちとのお別れ会・交流会を予定しています。

詳細は後日、HP や FB にて案内します。会員の皆さん、学生は優先参加できます。ぜひご参加ください！！

ダボ派遣生帰国報告会「コアラミーティング」 8/28（土）

藤井市長、教育長、議長はじめ、市民の皆さん70名に参加いただき、派遣生の発表を熱心に聞いていただきました。学生一人ひとりが異なる視点から個性ある内容で、この心身ともに成長期の大切な時期素晴らしい体験をしたことが伝わってきました



ダボへ庭師派遣 8/5～8/22

【ダボ・リージョン委託事業】



ダボリージョンより逍遙園の日本庭園管理の依頼があり、近藤氏、森田氏の庭師2名が、派遣生と入れ替わり到着し、2週間にわたって、庭園関係者の家にホームステイしながら、逍遙園の樹木の選定を中心に作業、地元のスタッフたちに直接指導いただきました。

ダボリージョン市役所で公園担当であるイアン・マカリスター氏は、美濃加茂市から寄贈された「逍遙園」を日本風の庭園ではなくオーストラリアで本物の日本庭園となることを目指して、長年関わっていらっしゃいます。逍遙園が美しい姿を持って成長し続け、姉妹都市の絆を深めているのも、地元のボランティアの方はじめ、両市の多くの方の努力があつてのことと思います。

グローバルお茶会 6/10（土）



在住外国人と日本人、参加者は自国のお菓子持ち寄りで気軽なおしゃべり会、開催しました。

今回は20名参加、日本語が得意でない方もこの共通語は日本語です。

美濃加茂で外国人と日本人市民、仲良くなりたいと思っている人がたくさんいます。でもなかなかきっかけや機会が見つからないとも聞きます。何回も繰り返し交流し、互いを知っていくことの積み重ねが大切です。一緒にやれることを小さなことから進めて行けたら良いと思います。

外国につながる児童生徒学習支援



MIRAI クラス 火・木(古井)水・金(太田)

市内の小学2年生～中学3年までのクラスです。

熱心学習サポーターの皆さん支えられ、日本語と宿題を中心に、子どもたちはとても頑張っています。

MIRAI-II / 親子クラス

年長～小学校低学年の親子が対象で、子どもの教育に少しでも関心を持ってもらいたいと思っています。

9月2日(土)には、親子でお弁当作りをして、子どもの栄養バランスなども学びました。



MIEA2023 年次総会 5/27 (土)



2023-2024 年度の代表理事に板頭芳樹氏が再任されました。
「人と人との交流が閉ざされた新型コロナウイルスによる社会活動制限も緩和され、本来の交流事業を再開できること、そしてより活性化する年度としたい」との会長の挨拶がありました。また当日は、4 月に完成した姉妹都市ダボリージョンの紹介ビデオが公開されました。

ダボ紹介動画こちらから



岐阜高島屋より新品ランドセル 20 個寄贈

3/31

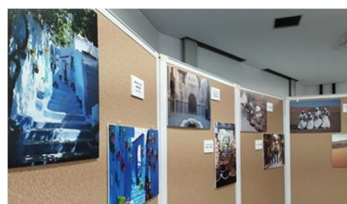


美濃加茂市へサステナブル協定の一環として、4 回目の寄贈をいただきました。
MIEA のボランティア事業として行っている学用品のリサイクルに活用しています。経済的に困難な外国につながる子どもたちの家庭へ新1年生にも以前はリサイクル品を渡していましたが、ここ数年、新品を渡すことができるようになり、子どもたちも大喜びです。



MIEA 会員の土屋操さんより、子どもたちのためにと小学校で使える靴袋や手提げかばんなど、可愛い手作りの小物をたくさん寄付いただきました。新1年生の子どもたちに一緒に渡しました。

「モロッコ文化交流」3/13 -3/18 (モロッコウィーク)



駅前分室では、1 週間モロッコウィークとして、モロッコの紹介写真パネルが設置され、多くの市民が来場して、モロッコミントティーやモロッコのお菓子(フェッカ)も試食してもらいました。
一般市民の方にも、在岐阜名誉領事館が美濃加茂市にあることを知ってもらう良い機会となりました。



モロッコウィークに続き、3 月 20 日(月)には、駐日モロッコ大使ブフラル・ラシャッド閣下が、開館 5 年を迎える「在岐阜モロッコ名誉領事館」を訪問されました。

大使による講演はモロッコの魅力満載で、参加者はみなモロッコ旅行熱が上がりました。

夜には藤井美濃加茂市長主催の「モロッコの夕べ」が開催され、古田岐阜県知事、山田在岐阜モロッコ名誉領事、小川県議、吉田岐阜県国際交流センター理事長などの来賓を迎え、大使館の料理人によるタジン鍋などの珍しいモロッコ料理が紹介されました。

◆モロッコ地震被害への救援金受付◆

モロッコの現地時間 9 月 8 日(金)深夜発生した地震により多くの方が被害にあわれました。

今回救援活動を支援するため、在岐阜モロッコ名誉領事館でも救援金の受付を行っています。



美濃加茂国際交流協会の問い合わせは事務局まで！

NPO 法人美濃加茂国際交流協会 Minokamo International Exchange Association

事務局 〒505-0041 美濃加茂市太田町 1752-1 則竹ビル1 階

TEL & FAX 0574-28-3822 (月～金/9:00～17:00)

E-mail office@miea-jp.com

URL :http://miea-jp.com

FB : http://www.facebook.com/miea.jp